

令和5年度在宅介護・地域包括支援センターの評価について サマリー

1 評価の必要性及び本市の対応について

地域包括支援センターが、その機能を適切に発揮していくためには、各センターごとに業務の状況を明らかにし、それに基づいた必要な機能強化を図る必要があるとされている。

評価指標については国から示されている評価指標はあるものの、この指標のみでは本市の施策の方向性や地域性等に応じた各センターの特性を把握しきれないことから市独自の評価項目を追加している。【スライド4】

「事業間連携」として一括りとされていた分類を3つに分割し、「市単独事業及び重点取組項目」を追加している。【スライド5】

2 各センターの評価【スライド7～】

・ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

法人独自の取組みである日曜日や祝日に相談員が常駐していることは地域住民にとっての安心感にも繋がり評価できる。

エリア内のラジオ体操の取組みはフレイル予防の啓発の場としても有効であり、今後のモデルとして注目していきたい。

・吉祥寺本町在宅介護・地域包括支援センター

月1回開催されている「吉祥寺本町・御殿山 NETWORK の会」では、医療・介護・福祉の専門家もメンバーとして参加し、市民やケアマネジャー等にとって身近な存在として相談しやすい雰囲気を作れており在宅医療・介護連携の推進の面で評価できる。

・高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター

エリアが広く、高齢者人口に比例し、相談件数も多い中、事務事業改善に取り組んでいる。その中でも地域の多様な団体の会合にこまめに顔を出している。他機関と連携も図りやすくなるいい取り組みであることから、引き続きの取組みに期待したい。

・吉祥寺ナーシングホーム在宅介護・地域包括支援センター

地域づくりや介護予防のために「北町キャラバン」を効果的に活用し、着実に活動を広げている。丁寧に取り組んできた結果であり、今後の展開を期待する。

・桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター

虐待、権利擁護、退院支援・ターミナル、サービス拒否など適切な支援につながらない困難事例についても、一つ一つのケースに対して丁寧な対応を行っており、評価できる。

「ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤」のような地域の福祉事業者や施設の核となり、地域住民とのつながりを築く、地域包括ケアシステムの中核を担う事業を展開している。

・武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センター

武蔵野赤十字病院内に設置されている在宅介護・地域包括支援センターとして、病院全体が地域包括ケアシステムの推進により積極的な役割を果たせるよう、院内での連携、情報提供に尽力している。また、「つながる境南キャラバン」など、地域の社会資源を活用し、支援や活動場所の開発などの結果につなげている。